

## DXの

159

## 先導者たち

イーアイアイ（東京 都千代田区、胡浩社長）は、廃棄物処理業者の業務効率化を目的にデジタル変革（DX）を推進する。同社が発売した「Waste F orce（ウェイスト フォース）」は、基幹システムと自動配車機能を統合したサービス。顧客管理から配車、I 技術が普及してき

## 廃棄物処理業務を効率化

## イーアイアイ



胡社長

「製造業と比べて、廃棄物処理業界は比較的アナログだった（胡社長）ことから、AI 技術で廃棄物処理業界のDXを後押しするためにイーアイアイを創業した。

た。製造業と比べて、廃棄物処理業界は比較的アナログだった（胡社長）ことから、AI 技術で廃棄物処理業界のDXを後押しするためにイーアイアイを創業した。初めに着目したのは、廃棄物収集時の配車計画を人が考える場

合、収集車の選別や効率的な経路の選択などの時間を要していた。さらに配車には、廃棄物がある現場や運搬先の住所のほか車両ナンバー、運転手の勤務状況を含めた基幹業務で使うデータも参考にする必要がある。

## 収集配車計画 5分で立案



自動配車にはAIを使う。従来、人が配車計画を立案していた場合に1-3時間程度を要していたのが、ウェイストフォースの導入で5-20分ほどに短縮でき、業務時間の短縮にもつながる。

価格を抑えられた。基幹システムと自動配車機能のいずれか一つを使うこともできる。ただ、廃棄物処理業界でのDXには時間がかかりそうだ。「DXへの抵抗感がある中でも、サービスの良さ

ウェイストフォースはIDとパスワードの入力で利用できる。ウェイストフォースはSaaS（サービスとしてのソフトウェア）で、日本全段と詳細に行える機能で使える。消費税抜きの利用価格は月額5万円。24年問題」に対応する新たなサービスの展開も計画している。

（阿部未沙子）  
（木曜日に掲載）